大阪市立大学工学部同窓会報　第34号　　2018年（平成30年）12月20日発行

大阪市立大学
工学部同窓会

同窓会だより

大阪市住吉区杉本 3－3－138
TEL 06(6607)8373
FAX 06(6605)2769
発行人　黒山　泰弘

《　目　次　》

黒山会長・長﨑名誉会長の挨拶 …… 2
市大TOPIC …… 3
学科の近況・会員短信（機械工学科）…… 5
〃　（電子・物理工学科）…… 7
〃　（電気情報工学科）…… 9
〃　（化学バイオ工学科）…… 10
〃　（建築学科）…… 12
〃　（都市学科）…… 13
工学研究科・工学部研究分野 …… 15
2018年工学部入学生名簿 …… 16
〃　工学研究科入学生名簿 …… 17
〃　工学部卒業生〔就職・進学先〕…… 18
〃　工学研究科修了生〔就職・進学先〕…… 18
行事報告／学生見学会 …… 19
〃　／工学部新任･若手教授による講演会 …… 20
工学部同窓会事務局便り …… 21
連絡先調査のお願い・編集後記 …… 23
2019年“工学部同窓会の集い”の案内 …… 24

ごあいさつ

大阪市立大学工学部同窓会長　黒山　泰弘

日頃より本会の運営にご支援・ご協力をいただいていることに感謝いたします。会報発刊にあたり一言ご挨拶申し上げます。

さて、母校は府知事・市長の主導のもと府立大学との統合が進められていますが、2019年４月には法人が統合され、以後３年を目途に大学統合を進めることを府・市から指示されているとのことです。本号において、神田大学法人副理事長からこの間の状況が紹介されていますが、学部単位での同窓会の存続にかかわる大きな課題でありますので会としてもその動向を注視してまいります。

本会の目的は、在学生を含む同窓生の親睦とともに、大阪市立大学工学部を支援し、その発展に寄与することです。具体的な活動としては、毎年２月の評議会後に懇親会や講演会を、また、11月に開催されるホームカミングデーにおいて「新任・若手教授による講演会」を開催しています。本年度は電子情報系専攻の林和則教授から「式が未知数より少ない連立方程式の解き方とその応用」と題して講演いただき、「圧縮センシングの応用」という最先端の研究内容をご紹介いただきました。今後もホームカミングデーに併せてこの活動は継続する予定ですので、最先端研究の一端に触れていただくのも年ごとに古びてくる頭脳の活性化に役立のではないかと思います。一方、学生をはじめとする工学部への支援活動として、学部、博士課程の学生への奨学金制度を運営しております。また、在校生と卒業生との交流の場として、卒業生が働く職場を訪問する工場見学会を毎年実施し、学生から好評を得ています。例年のお願いですが、会員諸氏から「わが社・わが団体へ」との情報提供をいただければ幸いです。

会の運営は、各学科から数名ずつ選出いただいた理事で協議・立案し、各学科・年次から選出された評議員の議決をもって執行するシステムとなっております。しかしながら、ボランティア活動のため現役世代の参加が難しく、執行機関である理事会の構成に世代の偏りを生じるとともに新陳代謝が不足する事態が生じております。また、現役世代の各種行事や会合への出席率が芳しくありません。ただ、今年度から若手理事（H13年卒西さん）に加わっていただけました。さらに、2019年度には現役世代女性理事の誕生を実現したいと考えております。これらの世代交代を通じて組織・活動の活性化を図っていく所存です。

最後に、うれしい話題を提供します。工学研究科前期博士課程２年でプロボクシングアジアパシフィックフライ級王座の坂本真宏君に世界挑戦の可能性が出てまいりました。この原稿を書いている段階では未確定ですが、大学・同窓会ともその実現に向けて最大限努力したいと思っていますので、同窓諸氏も応援をよろしくお願いいたします。

（土木工学科　1975年卒）

名誉会長　長﨑　健

今夏は地震・豪雨・台風と改めて自然の猛威を思い知らされました。被害に遇われた方々には心よりお見舞い申し上げます。その一方、荒れ狂った夏のせいでより爽やかで落ち着いた秋を感じることが出来る今日この頃ですが、同窓生各位には、多方面にてご活躍のことと思います。

４月より貫上佳則副研究科長と川合忠雄教育研究評議員と共に新たな工学研究科執行部として学部・大学院の運営に当たっています。

先ずは嬉しいニュースのお知らせです。2018年春の褒章で小池雅人客員教授（1979年博士）が紫綬褒章を、また秋の叙勲で志水英二名誉教授が瑞宝中綬章を受章されました。

続いて教員異動のお知らせです。本年３月に、中山　弘教授（物性制御工学）・藤本益美准教授（建築計画）・木内龍彦講師（建築防災）が定年退職され、瀧澤重志准教授（応用数学）が本学生活科学部へ異動、小林知弘講師（建築環境工学）が大阪大学へ転出されました。一方、４月には石山央樹准教授（建築構法）、遠藤智司准教授（環境化学）、呉　準席准教授（材料計測工学）、鈴木裕介講師（建築材料）が着任され、米谷紀嗣教授（反応化学工学）、五十嵐幸一准教授（生物化学工学）、内田　真准教授（材料機能工学）、中谷隼人准教授（材料知能工学）が昇任されました。また、安倍広多教授・石橋勇人教授・ベンカテッシュ　ラガワン教授・村上晴美教授・大西克実准教授・永田好克准教授・吉田大介准教授・米澤　剛准教授の８名の先生方が創造都市研究科より異動で仲間に加わりました。10月には小林祐貴講師（応用数学）が着任され、仕幸英治教授（スマートエネルギー工学）、遠藤　徹准教授（水圏環境工学）、武智誠次准教授（検出器工学）、中西　猛准教授（生物分子

工学）が昇任され、教育・研究体制の強化に努めています。

次に学生の動向ですが、平成29年度に学部272人、修士178人、博士８人が巣立つ一方、平成30年度は学部298人、修士203人、博士11人の新入生を迎え入れました。

さて、卒業生の皆さまにとって大学統合は気が気ではない問題かと思います。2019年４月の法人統合を目前に控え、現在は2022年４月大学統合への準備作業の真最中です。我々はここ数年この激動の時代に臨み、研究・教育・国際化・人材確保などにおける工学部・工学研究科の変革の必要性を大いに感じ、真剣に取り組んできました。例えば、研究に関しては、研究を実施するための校費の適性運用制度を開始したほか、研究の“活性化”と“見える化”を目的に「工学研究科教育研究センター」を４月に第一弾として機能創成科学分野で開設しました。そして10月からは医工・生命工学分野を設置したところであります。更に、来年度４月には都市科学分野のセンターを設置し、３センターによる研究・教育の高度化・先進化を推進して行きたいと考えています。

教育に関しては、時代に適合した教育システムを構築すべく若手も交えて議論を行っています。教育においても今後産学連携の重要性が一層増すことが予想されます。同窓生の皆さまにはより一層のお力添えをお願いする次第です。

国際化に関しては、海外の大学や研究機関との学術交流協定や学生交流に関する覚書を積極的に締結し、学生の海外派遣・受入など国際交流の増強を目指しています。

人材育成に関しては、大学院後期博士課程生への経済的支援増強や工学部に興味を持つ女子中高生への応援サイト開設やパンフレット作成、そして女子在学生の就学環境整備などを推進しています。

新大学においてよりよい工学教育・工学研究を遂行できるよう、現役教員一丸となり叡智を絞り社会に貢献していく所存です。皆さまには今後益々のご活躍をお祈り致しますと共に、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（工学研究科長・工学部長）

市大TOPIC

副理事長　神田幹夫

工学部同窓会の皆様には、日頃より本学の教育・研究・社会貢献活動そして大学運営につきまして格別のご理解ご支援を賜り誠に有難うございます。本年４月に副理事長を拝命し法人運営を担当しておりまして、現在進めています大阪府立大学との統合に関して現状と取り組みを報告したいと存じます。

大阪府立大学との統合に関して、2016年４月の「副首都推進本部会議」（府市の協議組織）において、先ずは両大学を運営する両公立大学法人の統合を行い、その後に大学統合を進めるという方向性が定められました。

2019年度に予定されている法人統合については、大阪府議会では昨年11月に、大阪市会では本年２月に、両公立大学法人の新設合併に関する議案等が可決されたものです。これにより２大学１高専を運営する新法人「公立大学法人大阪」が設立されることとなり、新大学実現に向けての第一ステップがスタートしたものです。

現在、府立大学と連携し、府市とも協議しながら、来春の新法人設立を目指して鋭意準備を進めているところです。府市においては、両議会で新法人の中期目標についての審議が継続中となっております（2018年11月９日現在）。

法人統合により目指すものとして、（１）両大学の経営面の一元化と教学面の連携を強化し新大学への移行をより円滑に推進することが挙げられます。また（２）法人役員数を削減、法人共通部門の集約化を図り、人材等の経営資源を大学運営に重点投入し、更には（３）両法人でこれまで培ってきた職員の能力技能を最大限に活用し事務力の向上を図り、大学高専の教育研究を支える事務体制を充実するものです。

新法人の組織・運営に関しましては、現在は兼務されている法人理事長と大学学長を分離し、理事長は法人経営に対してトップマネジメントを発揮し、学長は教育研究の推進に対しリーダーシップを発揮するとともに、役員には外部人材も登用し民間的発想・ノウハウを取り入れ法人運営に反映することとしています。

続く第２ステップとして、2022年には大学統合による新大学の実現を目指してまいります。大学統合に向けましては、更に府市両議会で関連議案の議決が求められことになります。

大学統合では、基幹教育の充実、キャンパスの再編整備、新分野・領域などへの投資を進めることで、将来を担う有為な人材を教育・輩出し、外部資金の更なる獲得努力により研究力の向上、大学運営や教学組織の改革により教育力や研究力の向上に取り組むこととしています。そのためには、具体的に、学部・学域などの教育研究体制の再編、カリキュラムや入試科目の検討整理、教育研究活動を展開するキャンパス再編整備、大学の自助努力と設置者への財源措置要望など、大きな課題を府市と両大学（現在の法人及び新法人）で協議解決しながら進めてまいらねばなりません。何よりも魅力ある新大学の姿としての展開を、全ての関係者に対して示していくことが重要だと考えています。

大学を取り巻く内外環境は大きく変わりつつありますが、中でも文部科学省の「大学進学者等の将来推計」によりますと、2017年では18歳人口120万人に対し大学進学者数はピークを迎えた63万人で、大学進学率は52.6％の実績値であったものが、2040年には同88万人に対し同51万人と大幅に減少しながらも同進学率は57.4％に上昇すると推計されるなど、大規模で複雑な変化が予想されるところです。

今後、法人統合の準備を着実に進めるとともに、新大学の実現に向けましては、世界に展開する高度研究型大学（新法人第１期中期目標（案）全文）として、大阪の発展を牽引できる大学として発展し、優れた学生や教職員、研究者から選ばれる大学となるよう新大学の姿を示しながら取り組みを進めてまいりたいと思います。

卒業生の皆様や多くの関係者に支えられ発展を遂げてまいりました市立大学の伝統とブランドは、大学が統合するときにも引き継がれていくべきものだと思います。

今後とも卒業生の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

特別寄稿

応物博・昭和54年修了　小池　雅人

2018年11月3日に開催された大阪市立大学ホームカミングディに参加させていただきました。その目玉企画のホームカミングディ講演会のお話は大学院医学研究科・医学部長大畑健治教授の「医学部が目指す他利、国際化、地域貢献、そして市大の発展」というご講演でしたが、その冒頭教育に時間は関係ない、インパクトが重要という話に私も深い感銘を受けました。大畑先生は二つの例を上げられ、最初の例は「吉田松陰が松下村塾で教えたのは2年間だけ」、次が「クラーク博士が札幌農学校で教えられたのが半年だけ」だったかと思います。実は私も以前からこの種の事柄に興味があり、その理由は私が市大に在籍したのは大学院後期課程の3年間のみですが、学問以外の実社会で非常に重要な技術も学ばせていただいたと思います。というのも指導教官であった旧原子力基礎研究所計測部門故小塩高文先生は当時東京都田無市のあった東京大学原子核研究所付設の電子蓄積リングから放出される放射光利用を行うINS-SORと呼ばれた研究グループの代表をされていて、学生の私はこのグル―プのメンバーではありませんでしたが、研究のお手伝い等をさせて頂くことから知らず知らずのうちに大型実験施設を利用する複数の組織が参加するプロジェクト研究運営のノウハウを実地で学ばせていただいたように思います。

1979年春に市大を修了後、京都にある島津製作所に光学設計担当技術者として就職しましたが、1980年代初頭に建設が進んでいた筑波の高エネルギー物理学研究所の放射光実験施設（フォトンファクトリ）に当時としては画期的な高性能の真空紫外（VUV）超高分解能三重分光器ビームラインの建設を島津が担当することになり、私は光学設計はもとより、当時まだ駆け出しの平社員ながらプロジェクトリーダーの副官役として、機械・真空・制御等の社内の多くの事業部に所属する技術者間の調整を行うなどをさていただきました。幸いにして納入された装置はその後約20年間世界最高性能を保持していたと聞き及んでいます。1989年から高輝度放射光施設建設が進められていた米国サンフランシスコ郊外のローレンスバークレー国立研究所に会社からの客員研究員として1年間の予定で分光器ビームライン技術の調査に行かせていただいた所、逆に上記の筑波での経験等を買われその後職員として1997年3月まで、足掛け7年間に渡り種々の分光器ビームラインの建設に携わることになりました。その後1997年に帰国し、京都府木津川市にある現（国研）量子科学技術研究開発機構関西光科学研究所に入所し現在に至っています。

最近は放射光向けの軟X線分光器開発で培った光学技術を生かせて汎用電子顕微鏡に搭載できる小型の軟X線分光器開発産学官連携チームの一員として光学設計及び回折格子の改良研究を行っています。この装置は2013年から日本電子から正式発売されており、国内外の研究機関等で金属材料、触媒、電池等の先端研究に広く利用いただいています。

これらの功績に対し幸いにして2018年の春の褒章で紫綬褒章（発明改良功績）を受章させていただき事ができました。これも市大での学生時代からの諸先生方、諸先輩の皆様の長年にわたる心のこもったお導きの賜物と深く感謝いたしている次第です。誠に有難うございました。今後も微力ながら科学技術の発展、産業利用と、後進の指導に当たらせていただこうと考えている次第ですので今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

（編集者注）　今回特別寄稿頂きました　小池 雅人氏は、平成30年春に紫綬褒章を受章されました。同氏は昭和54年大阪市立大学工学部後期博士課程を卒業、現在も一線で研究され、同時に本校の客員教授をされておられます。今回受賞に至るまでの同氏の研究について寄稿をお願いし、快く引き受けてくださいました。授賞理由については同氏の寄稿文に詳しく書かれています。今回の受章を心よりお祝い申し上げるとともに今後益々のご活躍を祈念します。

近況報告

機械工学科（旧機械・旧知材）

機械工学科の近況

工学研究科教授・機械工学科主任教授
加藤健司

卒業生の皆様にはますますご健勝でご活躍のことと拝察申し上げます。また、日頃より本学科・専攻に何かとご支援いただき、感謝申し上げます。

学生の入学ならびに卒業後の進路について報告させていただきます。平成30年４月には、新たに機械工学科57名、機械物理系専攻　前期博士課程（修士課程）41名の入学生を迎え、新年度をスタートしております。平成29年度卒業生の進路状況につきましては、51名が機械工学科を卒業し、うち10名が就職、41名が大学院（内２名は他大学）に進学しました。大学院では37名が前期博士課程を修了し、自動車、重工、家電をはじめ様々な分野の企業に就職いたしました。

ここ数年は卒業生の方々のご支援もあり、お陰様で良好な求人状況が続いております。一方で、学生によっては数社以上で不合格になるなど、企業側からはより厳しい基準で人材が求められていることを痛感いたしております。最近の学生を見ると、とても素直で言われた仕事を嫌がらずに黙々とこなすといった美点が見られる一方、自らの価値を相手に認めさせるような、人としての迫力に欠ける場合もまま見受けられます。面接のとき、やや頼りない印象が見え隠れしてしまう場合、難しい状況に陥っているように思えます。しかしながら、伝統ある本学に入学・卒業されたように、潜在的な能力が高いことは疑いもなく、我々教員一同、優れた人材へと成長されることを強く願い、日々の教育を行っております。諸先輩の方々も、後輩を見かけましたら、時には厳しいアドバイスなどしていただき、暖かく見守っていただければ大変嬉しく思います。

最後になりましたが、卒業生の皆様のこれからのご活躍を祈念すると共に、引き続き変わらぬご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

「偶然、奇跡といえる話」

機都・昭和23年卒　**村田　昭**

私は都島工業専門学校機械科を、今を去る70年前、昭和23年に卒業したものです。

永年、同窓会名を“23機会”と名付けて開催し、その様子は随時貴会報に投稿させていただいておりました。同窓会解散後は気ままに写真とパソコンで時間をつぶしています。今回運営しているホームページに載せている都島工専での面白いお話を披露したくおもいます。

学生時代の思い出話です。

O先生だったと思います。授業の中で話が出てきて、えっと聞き入ってしまった話です。

戦時中軍需工場で軍艦のエンジン部品クランクシャフト製造にあたっておられた時、製造も終盤に入り、そろそろ完成という時期、念のため図面を出して点検中、とんでもないことを発見したというのです。

なんと右のクランクシャフトなのにどうやら左のクランクシャフトになっているようだ。というのです。全員集合し見直して「こりゃえらいこっちゃ！！今から作り直ししていては到底納期に間に合わないぞ！！どうしよう。納期に間に合わないと海軍の作戦に影響するぞう！！」

しょうがない。とにかく発注元の軍の事務所にこちらの首脳が雁首そろえて謝り出頭した。するとそこに、反対側

左のクランクシャフトを受注しているライバル会社の幹部もきていた。「どうしたんですか」と声をかけると

「えらいことをしてしまったのです。反対の右クランクシャフトを作ってしまって謝りにきたのです。ところであなたたちは？」と聞き返してきた。

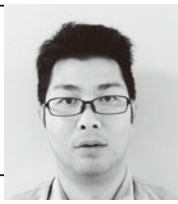
「実は　こちらも反対の左のクランクシャフトを作ってしまったのです。こりゃ何たる偶然これだったら双

方合わせれば正解になりますぜ！！！」
「これは奇跡　奇跡　万々歳ですぜ！！」

終わりよければ、万事よしかもしれないが、この時軍のお叱りがどんな内容だったかはそこまでは先生は話されなかった。本当に　世にも不思議な物語です。学生時代で忘れることのできない思い出話です。

ご興味のおありの方はホームページをご覧ください。
このお話しは随筆集第74話にあります。
ホームページのURL
http://kyono 1 mai.life.coocan.jp/

QRコード



機械・平成20年卒・同22年前期博士課程終了・パナソニック㈱　**倉田　理**

卒業生の皆様におかれましては、各方面で活躍されていることと存じます。私は2010年3月まで機械物理系の熱工学研究室でお世話になりました。学生時代はエアコンの実性能評価に関わる研究を行っており、修了後は、エアコンを通じて社会貢献を果たしたいと考え、パナソニック株式会社に入社致しました。入社後は、一貫しエアコンの設計開発、特に省エネ設計を担当しております。家庭で消費する電力のうち多くをエアコンが占めており、エアコンの省エネ性能向上が夏期等のピーク時における消費電力の低減に大きく貢献できます。

エアコンは圧縮機や熱交換器、送風回路といった要素部品が省エネ性能に大きく寄与するので、それぞれを最適化設計し省エネ向上を実現しております。学生時代に学んだ熱流体の知識を設計業務に活かすことができております。また近年、空調業界では省エネ性能はもちろん、空気の清潔さにも注力しており、エコ・快適・清潔を今後も進化しお客様の健康な暮らしに貢献できるよう、取り組みを継続的に推進してまいります。また、学生時代には勉学以外にも、体育会の準硬式野球部に所属して、リーグ戦で２回優勝したことも思い出の１つです。チームスポーツであり、多くの学部のメンバーや他大学との交流のなかで人とつながることの大切さを学びました。現在の業務は自分ひとりで出来るものではなく、関連部門の皆さまとのコミュニケーションにより成り立っており在学中に大変良い経験をさせて頂いたと感謝しております。

最後になりますが、在学中は先生方や在学生の皆様に大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。皆様の益々のご多幸とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

同期の結婚式

機械・平成25年卒・同27年前期博士課程修了・シャープ㈱　**岡本　雄希**

卒業生の皆さんにおかれましては、各方面でご活躍のことと思います。私は2015年まで機械物理系専攻の材料知能工学研究室にてお世話になっておりました。この度、同窓会報寄稿のお話を頂き、在学時を思い返してみると、講義を通しモノづくりに対する姿勢や楽しさを学ぶことができ非常に有意義な時間を過ごすことができたと感じております。

在学中に学んだ知識を活かしたいと思い、現在はシャープ株式会社に入社し、機構設計業務を行っております。特にお客様が実際に手にとって使う製品を設計したいと思いオーブンレンジの担当をしております。設計業務においては、使う方が怪我などをしないことは大前提として、使いやすさ・壊れにくさだけでなく、生産者にとって組み立てやすく、サービスマンにとって分解しやすいような構造を考えるように心がけています。実際に仕事として設計業務をすることになって改めて講義で学んだことの意味を実感しています。講義で引張り試験機を製作したことは今でも思い出に残っており、自分本位な設計はせず色々な立場から考えるという教えは今の私の根幹となっております。最近では外観部品を任せられることもあり、内装部品と違い表面の仕上げを気にかけなければいけないというのは難しいですが、日々とてもやりがいを感じております。まだまだ未熟で教わることも多いですが、設計のノウハウを吸収し、いち早く立派な技術者として活躍するのが今の私の目標です。

最後になりますが、在学中には先生方にはたいへんお世話になりました。改めてお礼申し上げますとともに、同窓生の皆様のますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

電子・物理工学科（旧電気一部・旧応物）

電子・物理工学科の近況

工学研究科教授・電子物理工学科主任教授
白藤　立

卒業生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

応用物理学科と電気工学科の学科再編により平成21年４月に発足した電子・物理工学科は、おかげさまで10年目を迎えることができました。皆様のご支援に深く感謝申し上げます。

本学科では、平成30年３月に40名が卒業、その内34名が本学大学院に進学、５名が就職しました。４月には46名の新入生を迎えました。大学院前期博士課程では、27名が修了、その内26名が就職、１名が後期博士課程に進学しました。後期博士課程では、１名が修了して就職し、上記進学者１名に加えて、社会人１名（本学科卒業生）が入学しました。

学科の体制としては、４月に呉準席氏が材料計測工学分野の准教授に着任、10月に武智誠次氏が検出器物理工学分野の准教授に昇任しました。

研究面では、小池雅人氏（昭和54年応用物理学専攻後期博士課程修了、本学客員教授）が春の褒章にて紫綬褒章を受賞されました。心よりお祝い申し上げます。

また、工学研究科共創教育研究機構のセンターとして、重川教授を中心とする機能創成科学教育研究センターが４月から、小職を中心とする医工・生命工学教育研究センターが10月から新たに発足しました。

教育面では、本学と大阪府立大学による博士課程教育リーディングプログラム（平成25年度発足）が最終年度を迎えました。現在、本学科の卒業生５名がプログラムを履修中ですが、工学部同窓会による経費のご支援を賜っておりますことを心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、卒業生の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げますとともに、引き続き変わらぬご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

電気・平成22年卒・同24年前期博士課程修了・パナソニック㈱　**能美　宏充**

在学中は「有機薄膜太陽電池の高効率化」の研究に従事しており、2012年３月に前期博士課程を修了、その後電気メーカーに就職しました。今でも在学中の思い出（サークル活動や学園祭、アルバイトなど）は忘れがたく、学生時代に戻りたいと思うこともあります。

電気メーカーに入社後、オフィスビルや病院などを設計する顧客に対し弊社商品（BEMSや自動火災報知設備、照明制御設備など）納入を目的にビル設備の設計支援を行っています。今では入社して７年が経ち、首都圏の著名物件や超大型ビルの設計に携わることが出来、充実した日々を送っています。

会社生活の中では新商品のセンサを某施設に納入したことが記憶に残っています。新商品のため設置環境や反応速度など懸念事項がありましたが、施設御担当者の要望をヒアリング・現場での設置位置検討や調整・社内関連部門との折衝を重ね無事に納入することができました。納入まで時間を要しましたが、最終的にはお客様にもご納得頂き、その後も継続的に納入するようになり達成感を感じています。

大学時代のように時間にとらわれず黙々と作業をしていたのに対し、会社では多くの人の協力を得ながら短時間でやり遂げることで楽しさや難しさを学んでおります。

しかしながら大学での研究で習得した論理的思考・仮設による取り組みなどは現在の仕事に活かせることも多々あると感じています。

現在は、世間で話題になっているIoTやAIというキーワードを注視しながら、メーカーからのプロダクトアウトにならないよう市場・顧客の声をものづくりに反映し、新たな商品・価値を創出するため日々取り組んでいます。

最後になりましたが、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

電気・平成23年卒・同25年前期博士課程修了・大阪ガス㈱　**関口　正大**

私は2013年に電気工学科修士課程を修了し、大阪ガス㈱に入社しました。工業向け（南大阪エリア）営業部門で燃料転換や、新規商材の拡販を行い、2018年から近畿圏外での燃料転換、商材拡販を行うために全国を駆け回っており

ます。学生時代は圧電素子を用いた放射線検出器を開発するために、千葉にある研究施設「HIMAC」の地下５階で、高エネルギー重イオンの照射強度のわずかな変化を読み取ることに四苦八苦していました。今でも、ノイズの山から照射強度に関連するパルスを見つけることができた喜びを覚えています。

現在の仕事は、主に工業工場に訪問し、お客様の生産工程についてお伺いしながら、稼働時の運用状況を細かく調査していきます。調査結果を元に、省エネルギー計画、あるいは、生産機械の運用改善計画を策定し、提案、販売、そして効果検証を行います。お客様に満足して頂くためには、最適なシステムを構築することが必要です。そのために、お客様の工場内を何度も何度も訪問します。燃料使用機器の効率、改善できる場所はあるか、潜在的な課題はないか、など検証を重ねます。そうして数々の事実を積み上げていきながら、課題を解決する手法を考える仕事は、かつて、多くの情報の中から必要な情報を取得するために検出器の出力を変え、導線を変え、コンデンサを変え、様々な手法を考えながら実験を繰り返していた学生時代と通じるものがあります。そして、もちろん、お客様の課題を解決できた時の喜びも同様です。電気工学の発展には、貢献できませんでしたが、今でもあの頃と同じ種類の喜びを求めて、四苦八苦しています。末筆ながら、今後の皆様のご活躍を心より祈念いたします。

結婚式

応物・昭和45年卒　　**山本　孝**

平成24年に日本ユニシス（株）を退職し、気ままな人生を送っております。

学生時代柔道部に所属していた関係で、OCUSA（体育会系クラブOB会連合）の常任理事を経て、OCUSAのスポーツフェスタ担当の副会長を任ぜられております。

同窓生の注目の的となっている府立大学との大学統合についても、来年４月より１法人２大学となり、その３年後には１法人１大学の予定です。そろそろ統合に向けた議論を活発化する必要性を感じます。OCUSAに携わっている関係上、練習場、対外試合、指導者の統合、部旗やユニフォームの費用などがどうなるのか気になるところです。体育会系クラブの統合に向けて、何らかの貢献ができればと思います。

話は変わりますが、応用物理学科昭和45年卒業のメンバーは、「ちょい悪おやじ」が多く遊びの話となると直ぐに纏まるという習性が見受けられます。数年前にAKB48というグループが結成された時に、負けじとOBT45（昭和45年応用物理学科卒業生）を結成しております。

年間スケジュール的には、１月の第１回蕎麦打大会、４月には賢島で春の旅行（兼ゴルフ大会）、６月には第２回蕎麦打大会、10月には秋のゴルフ大会、11月には忘年会で締め括ります。蕎麦打大会は鳳のN亭で開催されます。当日は３名の食材担当班が9：30頃に木津市場でまぐろ、たこ、とこぶしなどを購入し11：30頃N亭に到着、N亭では２名の蕎麦打名人が蕎麦打の準備を進め、同時に料理担当のM氏が料理を開始します。最初の料理が出来上がった12：30頃から酒盛りが始まります。そうして蕎麦が茹で上がる14：00頃には饒舌になり、17：00頃には意識が朦朧としてくるのが常です。

今年６月の蕎麦打大会の山本の失敗談です。18：00から別件の総会があったので、16：30頃N亭を出発。鳳駅から天王寺駅に向けて快速に乗車。なかなか着かない気がしたので、ふと窓の外を見ると左手に鳳駅が通り過ぎるのが見えた。天王寺に向かっているのに何故鳳駅が？一瞬パニックに陥った。どうも・・・ようである。次の駅で降り、反対側のホームから再度天王寺を目指した。総会には１時間遅れの到着となった。

春の旅行にて

電気情報工学科（旧電気一部・旧情報）

電気情報工学科の近況

工学研究科教授・
電気情報工学科主任教授
田窪　朋仁

卒業生の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

電気情報工学科が平成25年度に誕生して以来、学科は順調に発展しています。平成30年度は、４月に創造都市研究科から新たに異動してきた安倍教授、石橋教授、村上教授、吉田准教授、永田准教授、大西准教授の６名の教員が加わり、新たに応用システム領域を設立し、これまでのエレクトロニクス領域、情報処理領域、情報通信領域の３領域から、４領域の体制で新たな電気情報工学科がスタートする年となりました。また、10月にはスマートエネルギー工学分野の仕幸准教授が教授に昇任され、各領域の研究がますます促進されていくものと考えています。

教員の増員に伴い、学部・大学院共に入学試験では平成30年度入学定員を６名増員し、学部（電気情報工学科）51名、大学院（電子情報系専攻）61名の新入生を迎えました。また、３年前の学部カリキュラム再編を行った年度に入学した学生は、本年度４年生になり、エレクトロニクス、情報処理、情報通信の３領域に配属されました。平成30年10月現在、50名の４年生が在籍しており、そのうち33名が本学大学院の前期博士課程に進学予定です。内部進学予定者の人数が増加していることから、教育研究領域制の効果が着実に現れていると感じています。これからも電気・情報工学の幅広い知識を備えた学生の育成に努めるとともに、大学院では最先端の応用研究が行える体制を備え、社会をリードする技術者の育成に努めてまいります。

最後に、卒業生の皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念すると共に、引き続き変わらぬご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

情報・平成27年卒・同29年前期博士課程修了・住友電気工業㈱　**新　裕哉**

同窓生の皆様、大学関係者の皆様におかれましては、益々のご健勝のこととお慶び申し上げます。2017年に電子情報系専攻　知識情報処理工学研究室で前期博士課程を修了し、住友電気工業株式会社へ入社しました。只今は、自動車の電子制御装置、いわゆるECUの組み込みソフトウェア開発の業務へ取り組んでいます。

今年の４月にECUソフトの新しいプラットフォームへの対応組織へ異動し、幸運にも新規の事業に携われる環境に身を置くことができました。若手の社員が集められた組織でして、年の近い人たちの中で囲まれ、１つ下の後輩の指導をしつつ、社内には知見が十分にない技術を自分たちで調べながらあれこれとソフトを試作して仕事に取り組んでいる環境は、大学院の研究室時代を思い出させます。

私生活では、大阪にある貸し工房へ足を運んで木工工作に勤しんだり、３Dプリンタを購入し部品造形して遊んだりするなど、趣味工作に力を入れるようになりました。力を入れるといっても、いかんせん時間をとる趣味ですので、たまに暇を見つけて取り組む程度ですが、なんとか自分が楽しいと思えることを続けていければと思っています。

在学中に所属していたマイコン研究会の付き合いや会社のリクルータ活動で、卒業後も何度か大学を訪問する機会がありますので、訪問の際には、在学されている方の近況等をお伺いできればと存じます。最後になりましたが、大阪市立大学の先生方・先輩方には、多大なるご指導、ご鞭撻を頂きましたことに改めて御礼申し上げますとともに、同窓生の皆様の今後益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

情報・平成28年卒・朝日放送テレビ（株）　**清原　千春**

2016年３月に情報工学科を卒業し、朝日放送テレビ株式会社に入社いたしました。会社では、情報システム部門にて社内向けシステムのハードウェア・ソフトウェアやNWインフラの構築・保守などを担当しています。簡単なWebシステムや小規模なNWであれば自分で構築したり、あるいは大規模なものになると業者に発注して全体のプロジェクト管理のようなことをしたり、幅広く経験させていただいております。NW関連の仕事としては、ちょうど10月に支社の移転があったので、移設先新支社のNW構築プロジェクトに参加しました。セキュリティポリシーや使い勝手の良さ、管理のしやすさなど、先輩やメーカーの方と相談しながら構成を決めていきました。スケジュールのタイトさがネックでしたが、なんとか間に合って一安心でした。そろそろCCNAあたりは取れたらいいなと思っています。

先日、今年度の健康診断の結果が返ってきたのですが、もう少し日々の運動習慣を見直しましょうとのことでした。社会人３年目にもなると、すっかり通勤にも慣れ、会社まで最短で階段を使わずに行く道を体が覚えてしまいます。

軽い運動といえば、「ポケモンGO」が周りではいまだ根強い人気を見せていますが、私の場合は逆に「歩かないとできないゲーム」ということで早々にリタイアしてしまいました。家で楽しみながら運動ができるものといえば、最近はVRゲームかなと思っています。

というわけで、数年後読み返したときに懐かしい気持ちになれるように、少し時事ネタを挟んでみました。

末筆ではございますが、学生時代お世話になりました先生方、そして同窓生の皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

化学バイオ工学科（旧応化・旧生応化・旧バイオ）

化学バイオ工学科の近況

工学研究科教授・化学バイオ工学科主任教授
山田　裕介

卒業生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。まず学科の近況です。2018年４月に化学とバイオの研究領域の融合をより進めていくことを目的として、新たに化学バイオプロセス領域を立ち上げました。そのうち、反応化学工学分野は米谷准教授が教授に、生物化学工学分野は五十嵐講師が准教授にそれぞれ昇任して担当しております。

学科教員の異動ですが、３月に高分子科学分野の西山特任助教が、㈱トクヤマに転出され、後任として甲田特任助教が着任しました。７月には創薬生命工学分野に伊原特任助教が着任し、10月には生物分子工学分野の中西講師が准教授に昇任されました。また、昨年度まで副研究科長であった長﨑健教授は、４月より研究科長になられて益々ご活躍です。

研究活動も活発に行われており、今年度も学科教員に数多くの賞を授与されております。一部を紹介しますと、佐藤准教授、北川助教がそれぞれ南部陽一郎記念若手奨励賞、また、堀邊教授が電気科学技術奨励賞を受賞しております。さらに教育面においても辻教授が本学教育後援会「優秀テキスト賞」を受賞しております。

今年度の学生の就職内定状況ですが極めて順調で、まるでバブル景気の頃のようです。ただ、当時と違うのは学生が浮かれていないところです。当時、大学は「レジャーランド」などと揶揄されておりましたが、近年では講義に学生からの評価を反映させるなど大きく様変わりしたおかげか、目的をはっきり持って真面目に勉学に励む学生が増えています。

最後になりましたが、卒業生の皆様の今後、益々のご活躍を祈念いたしますとともに、引き続き本学科へのご支援とご鞭撻をよろしくお願いします。

応化・平成10年卒・同12年前期博士課程修了・
プライムアースEVエナジー㈱
武田　幸大

私は、2000年に応用化学専攻前期博士課程を修了し、パナソニックEVエナジー（現プライムアースEVエナジー）株式会社に入社しました。

入社当初から一貫してHibrid　Vehicle（HV）用の二次電池の開発/設計に携わってきました。当社は二次電池の製造会社ですので、工場密着型の技術を求められており、若手の頃は数日間工場に張り付いたこともありました。その頃の経験と知識が糧となり、現在は技術マネージャーとして後進の育成に力を入れております。様々な性格、適性を持った人を育成することは非常に難しいですが、やりがいも感じております。今は、行動心理学やレジリエンス思考、アンガーマネジメントのような心理学を部下の育成に取り入れたり、４つのタイプ診断による個々人の分析を育成方針に盛り込む工夫もしております。

近い将来、自動運転やAIを駆使したコネクティッド社会が到来し、電動車を単なる移動手段ではなくコミュニティーの一部として活用させる時代が来ます。当社も顧客からの要望を受け高品質な電池を安く、早く量産し、電動化社会に向け貢献している最中で、仕事にも力が入っております。

しばらく市大を訪問できておりませんでしたが、昨年は、久々にリクルーターとして訪問しました。杉本町近辺は学生の頃とは変貌し、月日が経ったのだなと感慨深く思いました。会社説明会では、学生の皆様に熱心に話を聞いていただき、質問もいただき、大変有意義な時間を過ごさせて

いただきました。

最後になりますが、同窓生の皆様のご活躍を祈念し、近況報告とさせていただきます。

応化・平成24年卒・同26年前期博士課程修了・㈱GSユアサ

鵜久森　南

私は2013年に化学生物系専攻前期博士課程を修了後、株式会社GSユアサに入社して、産業用途向けのリチウムイオン蓄電池に対する、寿命予測技術の研究開発に携わっています。産業用の蓄電池はAGVや鉄道など様々な所で使われ、燃料消費を低減し、省エネルギー化をサポートしています。それらに使われる寿命予測技術は、蓄電池のライフサイクル全域にわたって高品質を担保し、安心して使っていただくために不可欠な技術であります。その技術の開発には、私が大学院時代に培った電気化学の知識以外だけでなく、データサイエンスなどの、新しい知識やスキルが多く求められ、日々、悪戦苦闘しております。しかし、研究室で学んだ「同じやるなら楽しく」という姿勢で、何でも前向きに吸収しており、最近では二年連続、社内で特許の賞を受賞するなど、良い成果に繋がっているという実感があります。

入社当初から、社内リクルーターとして大学院の研究室に訪問しています。今年では、研究室主催の、関西の電気化学に携わる大学生が集まるサマースクールというイベントに、企業代表として呼んでいただき、多くの刺激をいただきました。最近でも、研究室同期の結婚式等で、研究室の同期やお世話になった小槻先生、有吉先生にお会いすることが多く、都度、研究室時代を回想しながら、その機会をまだまだ未熟な自分への鞭撻とさせていただいております。

変化の多い時代で皆様も日々悪戦苦闘されていると思いますが、「同じやるなら楽しく」の姿勢で、何事にも取り組んでいただければと思います。末筆になりましたが、同窓生の皆様のますますのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

生応・平成17年卒・同19年前期博士課程修了・同22年後期博士課程修了・山形大学教員

横山　智哉子

私は、2010年生物化学系専攻後期博士課程を修了し、学位を取得後、ポスドクや東京都内の私立大学助教を経て、山形大学にて助教をしています。現所属は、工学部化学・バイオ工学科と言う、まさに現在の出身学科と同じ名前の学科です！また、本学では、１教員につき１研究室を運営できるので、僭越ながら私も研究室主宰者として１人でラボを切り盛りしています。昨年度は研究室初となる卒業生２名を社会へ送り出し、先日、３期生目となる配属学部生を迎えました。来年度より研究室初の大学院生として進学してくれる学生もいます。大変なことも多いですが、学内外の先生方、共同研究者の方々や友人に助けてもらいながら何とか研究室を運営しています。

さて、大学教員になったと同時に、関西を離れ６年が経とうとしています。ホームから離れ、応援に行く回数も減ったかと思いきや、ビジターの熱いファンと仲良くなり、レフトスタンドから毎年声援を送っています。2018年はお隣の仙台にて交流戦を観戦しました。私が観戦した試合の勝率は高いのですが、チームは低迷し毎年残念な思いをしています。特にここ数年ホームでの勝率が悪い…

研究も「阪神タイガース」も思ったように行かないことも多いですが、相談に乗って支えてくれるのは大学時代の先生や友人です。いつもありがとうございます！「超変革」、「挑む」、「執念」を胸に刻み、常に「必死のパッチ」で新しいことにチャレンジし、ビジターの地で人との出会いや繋がりを大切に頑張っていきたいと思います。

乱文乱筆でしたがここまで読んで下さり、ありがとうございました。最後になりましたが、皆様のご健勝とますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

建築学科（旧建築・旧環都一部）

建築学科の近況

工学研究科教授・建築学科主任教授
谷口　徹郎

卒業生の皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。また、日頃より学部ならびに学科の運営に多大なるご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

本年３月、建築学科から39名が卒業し、そのうち23名は進学、16名は都市系専攻・建築関連分野修了生23名とともに社会人としての新たなスタートを切りました。

修了生の藤田拓也君（建築環境工学分野）は「複数開口を有する室を対象とした気流の乱れによる換気量の簡易予測手法」により日本建築学会優秀修士論文賞を受賞しました。本人の努力とともに、熱心な指導の賜物であると思います。学外活動では、計画系の学生７名が近江八幡市の小学校のトイレ改修プロジェクトに参加し、トイレの新しいデザイン、綺麗に維持する方法、トイレを我慢しないことなどを小学生とともに考えました。また、ネパールでの復興支援に関するワークショップに14名の学生が参加し、日本と異なる環境での建築について考える機会を得ました。今年は日本でも多くの災害があり、大阪は57年ぶりの強風に見舞われました。大阪市西成区の被害調査には、構造系の学生とともに、同区のワークショップに参加経験のある計画系の学生も参加しています。

学科の体制では、長年ご尽力いただいた木内龍彦先生、藤本益美先生が定年退職され、恩師の急逝により小林知広先生が大阪大学に転出されました。図形科学分野の瀧澤重志先生も本学・生活科学部に転出されるなど心細く感じたのですが、４月には石山央樹先生、鈴木裕介先生、10月には小林祐貴先生という若い方々をお迎えし、今は心強く感じております。

今後も教育・研究のみならず社会活動にも全力で取り組んで参ります。ご支援の程よろしくお願いいたします。

「建築会東京支部のOB会活動について」

建築・昭和58年卒・同60年前期博士課程修了　**大谷　康晴**

就職や転居などにより東京方面に在職、在住されている建築学科の卒業生が、毎年秋に同窓会を行っています。私は、４代目の東京支部長を務めています。

東京支部の始まりは、東京で仕事をされていた卒業生の忘年会がであったと聞いています。

その後、東京方面の卒業生に広く声掛けて、昭和59年からは、毎年、夏の終わりに日比谷公園・松本楼で盛大なOB会を開催するようになりました。私も卒業して間もなく、松本楼のカレー・ビル祭りの東京支部総会に参加したことを覚えています。

そのうち、OB会に趣向を凝らそうということで、当時、筑波大学におられた、故・栗原先生の企画により、平成３年にバスを仕立てて「筑波研究学園都市」の見学会を開催しました。この見学会はとても好評でした。

この後、東京方面で活躍している卒業生が関連した施設を訪問して、母校・大阪を離れた卒業生の親睦を深めようということで、見学会や講演会を続けています。見学会は通算23回行っており、横浜、浦安、新宿、小金井、汐留、上野、三鷹、浅草などを訪れました。

昨年は、東京支部発足に縁がある日比谷で、卒業生が現場監督を務めている「東京ミッドタウン日比谷」の工事現場を見学させてもらいました。

見学会の後は懇親会です。「毎年、同窓生が顔を会わせて、お互いの近況を話すのが楽しみで、この会が元気の源です。」と、おっしゃる卒業生もおられます。今年も皆様が、元気に楽しく集いました。

東京方面に来られた方は、ぜひ、お気軽にご参加ください。

東京支部見学会／懇親会「東京ミッドタウン日比谷」

都市学科（旧土木・旧都基・旧環都）

都市学科の近況

工学研究科教授・都市学科主任教授
山口　隆司

卒業生の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は学外実習や各種講演会を始め、様々な形で都市学科および大学院都市系専攻都市学講座の教育・研究活動にご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、平成30年度卒業予定者の進路として、28名が本学大学院などの前期博士課程に進学予定で、20名が企業・官公庁から内定を頂いています。大学院前期博士課程修了予定者は、１名が本学大学院後期博士課程に進学予定であり、３名が技術系公務員として、31名が道路・鉄道、総合建設業、建設コンサルタント、環境・設備系メーカーなどの企業からの内定を頂いています。来春より社会人となる卒業生・修了生の活躍に教員一同期待しております。何かの機会で彼等と会うことがありましたら、社会の先輩としていろいろとサポートいただければ幸いです。

教員の異動として、４月に遠藤智司准教授が本学のテニュアトラック准教授から環境化学分野の准教授に着任されました。環境科学分野は本学科に新しく設置された環境系の研究分野となります。10月には、水圏環境工学分野の遠藤徹講師が准教授に昇任されました。また、応用構造工学分野の森山仁志特任助教は、10月１日付けで、熊本大学助教に採用され、異動しました。

都市学科では、これまでのカリキュラムを見直し、社会の要請に的確に答えることのできる高度専門実務技術者の養成をめざし、来年４月から新しいカリキュラムのもと、学生教育をアップデートします。新カリキュラムでは、これまで以上に卒業生の皆様方との連携も重視し、ご協力をお願いすることもあろうかと存じます。これまで同様、本学科の教育・研究活動にご支援賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、卒業生の皆様の益々のご健康とご活躍を祈念致します。

「中之島線の延伸を期待する」

土木・昭和42年卒　　**毛戸　彰禧**

昨年、卒業50周年を迎え１泊旅行を計画しましたが幹事の急逝により実現せず、今年再挑戦しましたが運悪く、当日大阪北部地震により中止。つきがない50周年でした。今でも毎年２回は集まって友好を高めており、仲の良い気の合う同窓会かなと思っています。この集まりは三八会（さんぱちかい）と称し卒業年次でなく入学年次からとっています、その理由は入学は一緒でも卒業は異なるからです。

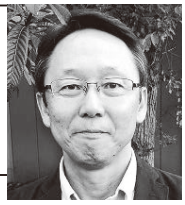
私は京阪電鉄一筋、立体交差化・地下化などの建設事業に携わり最後は中之島新線の建設でした。路線は京阪天満橋駅から終点中之島駅までの約３キロ、大川に近接、軟弱地盤のなかの難工事でした。今年は開通して丁度10周年を迎えていますが、乗降客は思い通り伸びず苦戦しています。

この路線は西九条を経て舞洲方面とつなぐ大阪市内の東西軸を形成する路線として認可されたもので、当時財政的

な面もあり取り敢えず中之島駅まで建設し、将来延伸するというもので一旦竣工したものです。つまり未完成の路線です。

ちょうど今、話題となっている大阪万博とカジノを含む統合型リゾートIRは夢洲で計画されていますが、これが是非とも実現するよう願いたい。と共に完成していない中之島線の延伸を心密かに期待しているところです。幸いにも現在京阪電鉄社長は市大卒業生の土木屋です。何か機運が熟しているように感じます。是非皆様方のご支援をよろしくお願い致します。

名前が嫌ですが後期高齢者となり、母の介護のため今は田舎暮らしが多く、細々と野菜作りに励んでいます。気力・体力も衰えつつありますが、せめて80歳までゴルフだけはと頑張っています。



土木・昭和62年卒・大阪府庁　**森　一夫**

工学部同窓生の皆様におかれましては、各方面でご活躍のことと存じます。今年の９月４日に台風21号による高潮が大阪湾で発生し昭和36年の第２室戸台風を超える潮位となりました。第２室戸の際は床上、床下併せて137千戸の浸水が発生したのですが、今回の台風では大阪府等が管理する防潮施設が効果を発揮し高潮による浸水被害は発生しませんでした。詳しくは「西大阪地域おける高潮対策の効果」で検索して下さい。

私は土木工学科を昭和62年３月に卒業すると同時に大阪府に入庁し主に下水道の仕事に携わってきました。高潮対策には関わっていないのですがこのニュースを聞いた時、土木技術が大阪を守っていると実感しました。私が携わっている下水道でいいますと就職当時60％であった大阪府の下水道普及率は現在96％に向上し、府民の皆様には大阪の海や川がきれいになったと感じていただけていると思います。また、下水道は浸水対策にも貢献しており、特に寝屋川流域や大阪の北部地域では大規模な雨水幹線が敷設されこの30年間で浸水に対する安全度は格段に向上しています。

現在大阪府には大阪市立大学出身の職員約340名（内工学部72名）が在籍しており大きな役割を果たしています。最近は売り手市場の就職戦線の中で、公務員人気は低くなっており、大阪府は優秀な新規職員の採用に苦労しています。大阪府には工学部で学んだ技術を活かせる仕事が沢山あります。大阪市立大学の現役学生の皆さんには就職先として是非とも大阪府を検討いただきたいと思います。

私の近況ですが、仕事はそれなりに忙しく、休日は下手なゴルフにはまっています。最後に工学部同窓生の皆様の御健勝を祈念し、筆を置きます。

工学研究科・工学部の研究分野一覧

専攻名	学科名	分野名	教員名
機械物理系	機械工学科	環境熱工学	西村　伸也
		熱プロセス工学	伊與田　浩志
		流体工学	加藤　健司
			脇本　辰郎
		機械力学	川合　忠雄
			今津　篤志
		生態計測工学	佐伯　壮一
		材料数理工学	山崎　友裕
			大島　信生
		動力システム工学	瀧山　武
		ロボット工学	高田　洋吾
		生産加工工学	川上　洋司
		材料物性工学	横川　善之
			岸田　逸平
		材料知能工学	逢坂　勝彦
			中谷　隼人
		材料機能工学	兼子　佳久
			内田　真
	工学部共通	応用数学	松岡　千博
			小林　祐貴
		機械工作室	吉岡　真弥
化学生物系	化学バイオ工学科	無期工業化学	山田　裕介
			有吉　欽吾
		工業物理化学	辻　幸一
		有機工業化学	畠中　康夫
			南　達哉
		高分子化学	堀邊　英夫
			佐藤　絵理子
			甲田　優太
		材料化学	小畠　誠也
			北川　大地
		反応化学工学	米谷　紀嗣
		生物化学工学	五十嵐　幸一
		生体機能工学	長﨑　健
			東　秀紀
		生物分子工学	北村　昌也
			中西　猛
		細胞工学	東　雅之
			尾島　由紘
		創薬生命工学	立花　太郎
		生体材料工学	立花　亮
複合先端研究機構			吉田　朋子

専攻名	学科名	分野名	教員名
電子情報系	電子・物理工学科	光物性工学	中山　正昭
		フォトニック工学	竹内　日出男
		波動物理工学	菜嶋　茂喜
		ナノマテリアル工学	金　大貴
		数理工学	寺井　章
			杉田　歩
		物性制御工学	福田　常男
		応用分光計測学	小林　中
		検出器物理工学	武智　誠次
		パワーエレクトロニクス	重川　直輝
			梁　剣波
		材料計測工学	白藤　立
			呉　準席
			村治　雅文
			田中　健司
	電気情報工学科	光電子工学	宮崎　大介
		電磁デバイス工学	辻本　浩章
		スマートエネルギー工学	仕幸　栄治
		システム制御工学	蔡　凱
		情報システム工学	高橋　秀也
			吉本　佳世
		情報処理工学	林　和則
			中島　重義
		知識情報処理工学	田窪　明仁
			上野　敦志
		情報ネットワーク工学	岡　育生
		情報通信工学	原　晋介
			杉山　久佳
			辻岡　哲夫
		マルチメディア工学	阿多　信吾
		応用システム領域	安倍　広多
			石橋　勇人
			村上　晴美
			吉田　大介
			永田　好克
			大西　克実

専攻名	学科名	分野名	教員名
都市系	建築学科	建築構造	谷口　与史也
			吉中　進
		建築防災	谷口　徹郎
			ガヴァンスキ江梨
		建築材料	鈴木　裕介
		建築環境	梅宮　典子
		建築デザイン	宮本　佳明
		建築史	倉方　俊輔
		建築計画	横山　俊祐
			徳尾野　徹
		建築構法	石山　央樹
		コミュニティデザイン	嘉名　光市
			蕭　閎偉
	都市学科	複合構造	鬼頭　宏明
		コンクリート構造	角掛　久雄
		橋梁工学・鋼構造	山口　隆司
		地盤環境工学	大島　昭彦
		地盤防災工学	山田　卓
		河海工学	重松　孝昌
		水理学	中條　壮大
		熱環境	西岡　真稔
		熱エネルギー設備	鍋島　美奈子
		水圏生態工学	相馬　明郎
		水圏環境工学	遠藤　徹
		水処理工学	貫上　佳則
		廃棄物リサイクル	水谷　聡
		環境化学	遠藤　智司
		環境都市計画	※嘉名　光市
			※蕭　閎偉
		交通計画	内田　敬
		交通環境	吉田　長裕
		空間情報学	ベンガテッシュラガワン
			米澤　剛

※建築学科兼担

行事報告

平成30年度「学生見学会」

工学部・工学部同総会が共催する「学生見学会」は、９回目となり、平成30年２月15日（木）、「大阪市海老江下水処理場」を見学先として、次の要領で実施されました。

〈見学先〉　大阪市海老江下水処理場　大阪市此花区高見1-2-47
〈参加者〉　在学生14名　教員２名　同窓会理事６名
〈スケジュールと実施内容〉
12:45　工学部階段教室前集合・点呼
13:00　貸し切りバスで大学を出発
14:00　海老江下水処理場にて
１部：会議室にて、工学部OBによる講演
①海老江下水処理場で行う施設の改築更新PFI事業について（30分）
講師：大阪市建設局　下水道河川部　河内　伸　氏
②市内下水処理場の運営方式について（20分）
講師：クリアウォーターOSAKA株式会社　大杉　朗隆　氏
２部：下水処理場についての説明および海老江下水処理場の見学（120分）
講師：クリアウォーターOSAKA株式会社　小谷統括　様他スタッフの皆様
17:00頃　懇親会場へ移動
〈懇親会〉　「居酒屋　活き意気本町」
大阪市中央区久太郎町３丁目　16名　参加

以下、参加学生諸君の感想（一部）を紹介します。

「日本で最も古くから稼働している下水処理場である海老江下水処理場の現在の設備を見学させて頂いたり，これからの展望についてご紹介していただき、私たちの日頃の生活の中で目に見えない部分ではありますがとても大切な役割を果たしている部分について改めて知識を深めることができました。市民の快適な生活を支えるために誇りを持って働いておられる方々の姿を見て、学生である今のうちから多くのことを学び考える力を身に着けていきたいと感じました。」（機械物理系Ｍ１、Y君）

「海老名下水処理場の細部まで見学し、学生のうちでしか体験できないような貴重な時間を過ごすことができ，非常に良かったです。また、懇親会にも参加しましたが、同窓会の皆様は話好きな方が多く、打ち解けやすい環境でした」（都市系Ｍ１、U君）

「授業で学んだ濁度試験などが実際社会でもちゃんと用いられている様子が確認できて、とてもよかったです。また、クリアウォーターさんから環境系の会社がどのような仕事をしているのかを知ることもできて、生活用水の確保のためにどのような取り組みが行われているのか、またそこにどのような技術があるのか確認できてよかったです。そして、最後に懇親会に飛び入りで参加させていただきましたが、先輩方から本当に貴重なご意見、お話を聞かせていただくことができ、とても参考になりました。また参加したいと思いました。ありがとうございました。」（都市学科Ｂ２、O君）

この「学生見学会」の実施にあたり大変お世話になりました大阪市建設局、クリアウォーターOSAKA㈱の皆様に深く感謝いたします。ありがとうございました。

S52年機械科卒　吉田　稔（副会長）

第５回工学部新任・若手教授による講演会

工学部・工学部同窓会共催の「第5回工学部新任・若手教授による講演会～私の研究が目指すもの～」が「市大ホームカミングデー」の特別企画として11月3日15時から16時20分まで工学部G棟1階中講義室で開催された。参加者は同窓会員30名。

講演会は吉田稔行事担当副会長（機械・昭和52年卒）の司会で進行した。

講演に先立ち、工学研究科長の長崎健先生より、工学研究科教育研究センター（機能創成、生命工学、都市科学の3部門）の設置による研究・教育の活性化と外部への発信などの取組みが報告されるとともに、学部生向け奨学金、後期博士課程学生修学援助、博士課程学生海外留学支援金などの同窓会の援助に対して謝意が述べられた。

続いて、2017年4月に電子情報系専攻の教授として着任された林和則先生により「式が未知数より少ない連立一次方程式の解き方とその応用」と題した講演が行われた。

林先生は、2002年3月大阪大学大学院工学研究科博士後期課程修了（研究分野は通信工学・無線通信）、2002年4月より京都大学大学院情報学研究科助手、2007年助教、2009年より准教授として数理工学とくに信号処理の研究に取り組んでこられました。市大では統計的信号処理、通信工学、データ解析の分野の研究をされておられます。

米国の情報科学の権威者とフィールズ賞を受賞した天才的な数学者が2006年に共同で行ったMRI（Magnetic Resonance Imaging、磁気共鳴画像法）画像の鮮明化に関する研究をきっかけに、MRIや通信分野に限らず多くの分野で爆発的に研究され導入されてきている「圧縮センシング」技術の基本的な考え方が解説された。

興味のある、n個の成分x_i（i＝1～n）を持つ未知変数**x**は直接観測できないが、未知変数**x**に既知の観測行列**A**を乗算した**y**＝**Ax**が観測可能であれば（線形観測）、観測結果**y**と観測行列**A**の情報から未知変数**x**が推定（再構成）できる。これは通常の連立一次方程式の解法。

さて、ゼロ成分が多く含まれることがわかっているスパース（疎）な未知変数**x**に対しては、非ゼロ成分の数kより多いm回（m＞k）の観測を行えば、その数が未知数の数nより少なくても（m＜n）、**y**＝**Ax**の制約のもとでxiの絶対値の和を最小にするような最適化問題を計算機で解くことにより未知変数**x**が再構成できる、すなわち、ただ一つの「真の解」が求められる。評価関数としてx_iの2乗和の平方根ではなく、x_iの絶対値の和を用いるのがポイント。未知数の数よりも少ない（圧縮された）観測（センシング）で再構成できるので「圧縮センシング」と呼ばれている。また、ディジタル通信の送信信号のように、**x**が+1、－1の離散値で構成されている場合も、x_iに－1または+1を加えることによりスパースな変数に変形できるので圧縮センシングが可能であると解説された。

応用例として、通信機能や計算能力を持つセンサーノードを観測対象の領域に多数配置し、それらによって集められたデータから所望の情報を抽出する無線センサーネットワークにおいても、離散フーリエ変換、離散コサイン変換、waveletなど可逆な変換行列を用いることにより、変換領域で表現された観測データがスパースであれば圧縮センシングが適用でき、データ収集時間や計算時間が大幅に短縮できること、また、ネットワークトモグラフィにおけるリンク遅延やリンクロス確率の推定、さらにはIoT（Internet of Things、モノのインターネット）環境のデータ収集における圧縮センシングの導入例などが紹介された。

講演のあと、画像処理への適用や解の一義性について若干の質疑応答がなされた。

最後に、黒山泰弘同窓会長（土木・昭和50年卒）から、圧縮センシングが通信工学の分野に限らず多方面の分野に適用可能ということですので、学生への指導も含めて今後ますます研究が発展されることを期待していますとの挨拶があり、閉会した。

東　恒雄（機械・昭和41年卒・理事）

ご存知ですか？

大阪市立大学では、各分野で活躍している卒業生や教員等の専門家が講師となり、一般市民を対象にした専門家講座を毎年１月～３月に開講しています。分野は法律、会計、証券、技術、文化・歴史、理学、スポーツなど多岐にわたっています。会場は大阪駅前第２ビル６階にある大阪市立大学文化交流センターです。興味がお有りの方は、インターネットで 大阪市立大学オープンレクチャーズ で検索してみてください。

事務局便り

評議員会報告

会議名	第29回評議員会
日時	平成30年２月24日（金）午後２時00分～３時10分
場所	大阪市立大学学術情報総合センター　文化交流室
議案項目	①2017年度（第23期１年度）事業報告　②2017年度収支決算及び会計監査報告 ③2018年度（第23期２年度）理事会役員案　④2018年度事業計画案 ⑤2018年度予算案

議案書抜粋

①第23期第１年度（2017年１月～12月）収支決算書

（イ）経常費収支決算表（円）

収入		支出	
終身会費	5,820,000	会議費	187,269
貯金利息	653	行事費	161,530
経常寄付	309,000	交流・懇親行事費	49,700
		会報発行費	1,671,386
前期より繰越金	4,520,339	会員データ管理費	183,600
		協賛費	206,457
		渉外費	24,904
		事務局費	2,439,120
		通信費	894,807
		事務費	157,524
		備品費	0
		会費徴収費	22,360
		予備費	0
		次期への繰越金	7,044,460
合計	12,238,117	合計	12,238,117

（ロ）貸借対照表（2017年12月末）（円）

借方		貸方	
振替口座	1,605,474	2016年度　累計剰余金	4,520,339
普通預金	6,807,856	2017年度　剰余金	2,524,121
定期預金	33,341,368	特別基金	34,710,238
合計	41,754,698	合計	41,754,698

②第23期第２年度（2018年度１月～12月）理事会役員

会　長：黒山泰弘（土50）
副会長：吉田　稔（機52）、森田至彦（電51）、神門　登（化45）、宇野　勝久（建49）、斎藤壽士（物44）
会　計：東　恒雄（機41）
理　事：人見宗男（機31）、宮本万功（機43）、笠上文男（機50）、瀧山　武（機59）、栗政幸一（電31）、建部　渉（電35）、行藤三男（電36）、南　繁行（電45）、木村雅之（電51）、前谷治男（電51）、村治雅文（電62）、西　邦夫（電H13）山田文一郎（化修40）、三浦洋三（化42）、西口克彦（化43）、安田　裕（化48）、大嶋　寛（化49）、芝野弘之（土44）、浅井真一（土48）、日野泰雄（土50）、廣瀬彰則（土54）、大島昭彦（土55）、貴志義昭（昭41）、坂　壽二（建42）、太田隆司（建55）、小西浩夫（建56）、谷口徹郎（建59）、田守芳勝（物38）、柳川重昌（物44）、山本　孝（物45）、大前秀治（物56）
監　事：高桑久茂（電46）、志野太一（物40）

③第23期第２年度（2018年１月～12月）事業計画

①会報第34号を12月中に発行･配布。
②工学部･全市大行事及び事業への協力。
③会員相互の親睦交流の促進。
④特別基金の活用。
⑤工学部同窓会奨学金基金の運用。
⑥準会員（在学生）の工場見学の実施。
⑦工学部・同窓会共催；新任・若手教授による講演会の実施。

④第23期第２年度経常費予算（円）

収入		支出	
終身会費	5,700,000	会議費	160,000
貯金利息	1,000	行事費	336,000
経常寄付	279,000	交流・懇親行事費	120,000
前期繰越	7,044,460	広報費	1,750,000
		会員データ管理費	280,000
		協賛費	1,000,000
		渉外費	20,000
		事務局費	2,600,000
		通信費	100,000
		事務費	166,000
		備品費	100,000
		会費徴収費	50,000
		予備費	200,000
		次期への繰越金	6,142,460
合計	13,024,460	合計	13,024,460

2018年工学部卒業新評議員名簿

機械工学科	日下　貴文	・	藤田　純一
電子・物理工学科	東原　直斗	・	宮本　凌竹
電気情報工学科	河野　太成	・	西田　和弘
化学バイオ工学科	津川　拓輝	・	森　智也
建築学科	海本　芳希	・	原田　慎也
都市学科	塩津　良将	・	田中　さち

第30回評議員会のお知らせ

評議員各位には当会の活動に種々ご協力頂き誠に有難うございます。

さて、標記の**第30回評議員会**を下記の通り開催致します。万障お繰り合わせの上ご出席下さいますようお願い申し上げます。

なお、ご欠席の場合の**委任状**（後日送付）を、**2019年２月８日（金）**までに必ずご発送ください。

記

日　時：2019年（平成31年）２月16日（土）
午後３時00分～４時10分
会　場：ヴィアーレ　大阪

理事会報告

第23期第４回理事会

日　　時	平成29年12月13日午後６時～８時
場　　所	大阪市立大学文化交流センター小セミナー室
参加理事数	20名＋事務局
主な議題	①会長報告 ②奨学金決定審査委員会について ③同窓会報33号の発行について ④第29回評議員会の開催について

第23期第５回理事会

日　　時	平成30年１月25日午後６時～８時
場　　所	大阪市立大学文化交流センター大セミナー室
参加理事数	16名＋事務局
主な議題	①会長報告 ②奨学金の返還方法について ③評議員会議案について ④工学部同窓会職員の退職金等について

第23期第６回理事会

日　　時	平成30年４月18日午後６時～８時
場　　所	大阪市立大学文化交流センター小セミナー室
参加理事数	14名＋事務局
主な議題	①会長報告 ②今期の理事会について ③理事の役割分担について

第23期第７回理事会

日　　時	平成30年７月18日午後６時～８時
場　　所	大阪市立大学文化交流センター小セミナー室
参加理事数	15名＋事務局
主な議題	①会長報告 ②2019年度同窓会奨学金募集について ③2018年度ホームカミングデーの実施行事について

第23期第３回理事会

日　　時	平成30年９月26日午後６時～８時
場　　所	大阪市立大学文化交流センター小セミナー室
参加理事数	19名＋事務局
主な議題	①経過報告 ②工学部同窓会報第34号の発行について ③工場見学会について

平成30年度
工学部同窓会奨学生採用の報告

「工学部同窓会奨学金」は、工学部同窓会設立50周年記念事業として創設されました。設立50周年記念募金から850万円、同窓会の保有資産から3,000万円の計3,850万円の範囲内で運営することにして、平成22年度入学希望者から奨学生募集を開始しました。

本奨学金は、経済的理由により入学後の修学に困難が予想される優秀な高校生に対して、入学試験の出願時期より１ヶ月以上も前に奨学生の募集と内定を行い、入試に合格した場合には入学手続き時より奨学金を貸与するのが特徴です。入学手続き時に50万円、それ以降２、３、４年進級時にそれぞれ25万円の計125万円を無利子で貸与します。

平成28年度入学希望者以降は、一般入試受験生用（定員10名）と、推薦入試（指定校制推薦を含む）受験生用（定員１名）に分けて奨学生を募集しています。募集案内は、工学部同窓会のホームページにも掲載しています。

平成30年度は一般入試５名、推薦入試１名の応募がありましたが、最終的に入試に合格した一般入試２名、推薦入試１名の入学生に対し、入学手続き時に50万円を貸与しました。

奨学金貸与者は今年度分を含め14名（内１名は２年進級時から辞退）になりますが、今年から初回貸与者の大学院前期博士課程修了に伴い奨学金の返還が始まりました。返還は「自動送金」により工学部同窓会の銀行口座に送金してもらうことにし、奨学生が自動送金を依頼する銀行の『定額自動送金依頼書』のコピーを添えて「奨学金返還計画書」を卒業（修了）前に提出してもらっています。

奨学金担当理事　東　恒雄（機械・昭和41年卒）

工学部同窓会員連絡先調査について ご協力のお願い

同窓会員の皆様には毎年12月に「同窓会だより」をお送りし、また、５年前に発足した大阪市立大学同窓会（全学同窓会）が発行する「全学同窓会報」も工学部の卒業生には工学部同窓会員名簿に基づき発送しています。しかし、毎年、100名前後の方への発送分が「あて所に尋ねあたりません」として返送されてきます。

転居の際には学科（専攻）名、卒業（修了）年、氏名、郵便番号、連絡先（現住所）を葉書、メール、または同窓会ホームページの「連絡先変更依頼」よりご連絡ください。

工学部同窓会メールアドレス：dousoukai@eng.osaka-cu.ac.jp

工学部同窓会ホームページ：http://kougakubu.osaka-cu.net/

なお、スマートフォンからも「大阪市立大学工学部同窓会」で検索していただくとアクセスできて連絡先変更が可能です。

ここからがお願いです。

工学部の卒業生（大学院進学者、都島工専卒業生を含む）は14,392名ですが、4,143名の方が連絡先不明です（2018年11月８日現在）。

市大と大阪府立大学の統合が現実味を増してきています。大学統合の趣旨や形態、とくに工学部はどのように変わるのかなども、卒業生には「同窓会だより」「全学同窓会会報」を通して伝えたいと考えています。

クラスメートに「同窓会だより」が届いていない方がおられたら、送付先を同窓会に連絡するようお伝えお願いいたします。

大阪市立大学工学部同窓会事務局

投稿方法・事務局への連絡先

近況報告に投稿を希望される方は、工学部同窓会事務局にお問い合わせください。

☎ 06-6607-8373　dousoukai@eng.osaka-cu.ac.jp

編集後記

同窓会だより第34号をお届けします。

前年の第33号編集後記で、大阪府立大学との統合に関する見通しについて書きましたが、本号Topicsでは、神田副理事長様より、来年2019年4月に運営法人を統合する「公立大学法人大阪」設立の意義や、2022年に予定されている大学統合による基幹教育の充実や教育力・研究力向上取り組みついて寄稿いただきました。統合に向けていよいよ動き出したと感じています。

この統合により、単純計算で学生数は約1万6000人と国内最大の公立大学になる見込みです。大学の統合再編に向けてはまだまだ課題はあると思いますが、新大学が大阪にとって必要不可欠な大学であり続け、大阪の発展をけん引し、有為な人材を多数輩出できるよう願っています。

編集委員（○印：編集長）
○斉藤　壽士（応物：昭和44年卒）森田　至彦（電気：昭和51年卒）人見　宗男（機械：昭和31年卒）瀧山　武（機械：昭和59年卒）木村　雅之（電気：昭和51年卒）村治　雅文（電気：昭和62年卒）山田　文一郎（応化：昭和40年修）大島　昭彦（土木：昭和55年卒）

“工学部同窓会の集い”
ー同窓懇親パーティーー2019ー

来春の“工学部同窓会の集い”下記の通り開催します。
当日は大阪市立大学の現状についてお話ししていただき、そのあと現・旧の恩師の方々にもご臨席頂いて同窓生の方々の現況などをご報告いただいたらと考えております。同期生や職域での同窓生をお誘い合わせの上、ご出席下さい。ミニ･クラス会や、ミニ･職域同窓会を兼ねてのご参加も大歓迎で、年々増えております

記

日　時　2019年２月16日（土曜日）
午後４時30分～午後６時30分

会　場　ヴィアーレ　大阪
大阪市中央区安土町３-13
（TEL：06-4705-2411）

会　費　6,000円（当日、会場にて徴収）

申込方法

１）連絡事項：①ご氏名、②学科（専攻）名、③ご卒業（修了）年、④住所（連絡先）

２）方　　法：ハガキ、FAXまたはHP、e-mail

３）期　　日：2019年２月８日（金曜日）

申 込 先

大阪市立大学工学部同窓会　事務局
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
FAX：06-6605-2769
e-mail：dousoukai@eng.osaka-cu.ac.jp
HP：http://kougakubu.osaka-cu.net